

あかりんちゅ「リサイクルキャンドルでスローな夜を・・・」

白井希実・白井麻葉

滋賀県立大学近江楽座 あかりんちゅ
環境政策・計画学科四回生

あかりんちゅとは

近江楽座プロジェクトチームの1つ『あかりんちゅ』は、環境政策・計画学科の学生が2008年11月11日に彦根で行われた「ひこねキャンドルナイト」に参加した際、キャンドルナイトに何万個ものキャンドルが使用されていることに対し「もっと環境に配慮したキャンドルナイトができないだろうか?」という疑問を持ったことがきっかけで立ち上げた団体である。私たちは、お寺などから頂いた廃棄ろうそくを溶かしなおし、リサイクルキャンドルを作り、それを使ったキャンドルナイトや、キャンドル作り教室、キャンドル販売などを行っている。

キャンドルナイトとは、照明を消し、キャンドルの灯りでゆっくりとした時間を過ごそうというスローライフ運動の一つである。人々の集う場所になり、キャンドルの揺れる灯りには人の心を癒す効果がある。リサイクルキャンドルを使用することで、キャンドルナイトイベントをただの灯りイベントで終わらせるのではなく、環境的な意味を付加したイベントにし、電気を消してリサイクルキャンドルを灯して過ごす「エコでスローな夜」を広めようと活動している。キャンドルナイトを行う際には、あかりんちゅでハンドベル演奏を行い、視覚だけでなくにも癒しを与えたいと、「音×灯」といった活動も取り入れている。

キャンドル作り教室では、子ども向けに廃棄ろうそくを使ったりリサイクルキャンドルの作り方を教えている。キャンドル作りを通して子ども達に廃棄ろうそくの存在や、再利用出来るものは使えなくなるまで使用するというリサイクルの姿勢を伝えている。その自分で作ったキャンドルを家庭で灯してもらい、家庭でも「エコでスローな夜」を取り入れてもらいたいという想いで活動している。

大学生協や同じ近江楽座のカフェを運営している団体に委託販売を依頼し、そこでリサイクルキャンドルの販売を行っている。近年あかりんちゅのキャンドル製造のスキルが上がってきており、かき氷キャンドルやドーナツキャンドルなど様々なキャンドルを販売している。

さらに、あかりんちゅは近江楽座の中で唯一のSプロジェクトであり、あかりんちゅが行ったキャンドルナイトなどで頂いた資金で活動費を賄っている。

今年度はあかりんちゅが今までに経験のない大規模な1万個のキャンドルナイトを行った。このイベントで使用した一万個のキャンドルは、地域の福祉作業所の方にキャンドルの製造を委託し、作って頂いた物を使用した。製造委託をしたことで、あかりんちゅのキャンドル製造の技術の提供を行うことができたと共に、福祉作業所の方との新たな繋がりを生むことができた。このイベントでは、1500人もの人に見に来ていただき、あかりんちゅのことを多くの人に知ってもらえる良い機会となった。また、あかりんちゅが多くの人々に支えられて活動できているということを、メンバー全員が改めて感じたイベントとなった。



近江楽座説明会キャンドルナイト



3.11 キャンドルナイト (2013.3.11)



能登川南小キャンドルナイト (2013.11.23)

感想と課題

あかりんちゅは1つの地域に限定して活動しているのではなく、彦根市以外でも様々な場所でイベントを行っている。私は、実際に地域に入り込んで活動し、色々な人とお話しすることで、机上では分からない様々な地域の課題や地域の人の想い、人とのつながりの大切さについて知ることができた。地域活性化の複雑な問題についても考えさせられた。地域活性化という言葉は曖昧であり、今までプラスのイメージしかなかったが、地域活性化の活動は難しく、地域の人が望む街、望む形の地域活性であり、1番に地元の人が地域を盛り上げたいと思っていなければ意味がないのではないかと思う。それぞれの地域に沿った地域活性化の活動を考える必要があると思った。

また、あかりんちゅはSプロジェクトであり、自分たちでしっかりお金を管理し、頂いた依頼料などで活動費を賄っていかなければならない。1番私が難しいと感じたのは、イベントをする際に依頼者から頂く企画料の設定である。基本的なあかりんちゅの料金体制マニュアルはあるが、依頼して頂いた方との相談で価格を設定していく。大規模なキャンドルナイトでは細かくろうそくの芯やカップの値段を1個単位で計算した。学生の立場で、自分たちの活動にこんなにもお金を頂いていいのかと悩んだりもしたが、依頼者の方はとても喜んで下さり、私も期待される以上の良いイベントにしなければと気持ちも入った。

今年度のあかりんちゅは1万個のキャンドルナイ

トという大規模なイベントを成功させ、大規模なイベントを行う上でのスケジュールリング、人員の確保、計画的な準備、当日の役割分担、安全面への配慮、企画料の設定、キャンドル配置のデザイン作成、キャンドルを並べる手順など様々なノウハウを獲得できたことはあかりんちゅにとって大きな成長となった。昨年仕上がったチームの活動の基盤の役割分担に沿って、ひとりひとり役割を持ち責任を持って動くことで、あかりんちゅの活動のリズムができてきたように感じる。これにより1年間に多くのイベントをすることが可能となり、難しい曲のハンドベル演奏や大規模なキャンドルナイトへの挑戦ができた。この1年で、更なる活動の可能性が広がったと思う。今後もあかりんちゅは更なるスキルアップを目指し、小さいイベントから大きなイベントまで様々な活動に取り組んでいきたい。(あかりんちゅ4代目代表 白井希実)

新たな気づきと課題

あかりんちゅの行うキャンドルナイトやキャンドル作り体験教室といったイベントは、地域の方から依頼を受けて行うことが多い。依頼者それぞれで依頼を受ける内容は大きく異なり、あかりんちゅもお金をもらって依頼を引き受けている以上、依頼者のニーズに合うイベントの企画・提案を行うことが必要となる。私は、イベントの企画・提案を通して、依頼者である地域の方が求めるものがその地域のニーズや課題であること気づいた。また、あかりんちゅとしても依頼者から受ける要望をただ受けるのではなく、Sプロジェクトとして自立した運営を行っていくためには活動費用が必要となるため、イベントの費用の面で依頼者側と交渉することも必要となってくることを学んだ。

私があかりんちゅの活動を通して、一番感じたことは人との繋がりだ。普段このような活動をしなければ関わることが出来ない方と関わりを持つことができた。これまで、キャンドルナイトやキャンドル作り体験教室といったイベントを通して、地域の人を始め、社会人の方や学校の先生方と接する機会が多くあった。そこで、普段気付かなかった人の温かさや団結力の大切さに気づいたり、自分と異なる視点や考え方を持つ人と関わることで、活動での新たな気づきや課題を見つけることができた。

私があかりんちゅの活動を始めた頃は、少人数で

活動を行っていたが、現在では20名以上のメンバーで活動に取り組んでいる。メンバーが増えたことにより、大規模なイベント開催が可能となったり、メンバーで意見を出し合いユニークなキャンドル商品の開発も行われるようになるなど、あかりんちゅは年々活動の幅を広げている。今年度は1万個のキャンドルを使ってキャンドルナイトの開催し、見事成功させることができた。この経験から得たキャンドルナイトでのノウハウや、これまで活動し、関わってきた地域の方々との繋がりを大切に、代々あかりんちゅの先輩方が築いてこられた活動を今後もより良りよくするために後輩達と共に頑張っていきたい。（あかりんちゅ4代目副代表 白井麻葉）



メンバー集合写真(夏湖風キャンドルナイト)